

【第三部の序】

私見では、結末を考えて書き出す作家と、結末を考えないで書き出す作家と、おおきく二とおりある。

本人も云っているとおり、前者の代表は三島由紀夫であり、後者の代表は川端康成である。

わたしの場合は、(偉い作家ではないから、どちらでもいいのであるが)ほとんどいつも、結末を考えてから書き出す。

(考えたとおりの結末にならないことも、すくなからずあるのだが)

短編はもちろん、四百枚くらいの長編でも。

けれども大河小説となると、そうもいかない。

しかも終わることのない小説だから、結末を考えようもない。

どうしてそんな小説を書き始めたのかと云うと、もうかれこれ四十年余り前のことだから、よく覚えてはいないのだが、おそらく現代の狂気というものを書きたかったのだろう。

売文家ならいざしらず、本質的な作家というものは、在りもしない人間の明るい未来や、在りもしない人間の美しい過去なんかを書くものではなく、在るはずの現代の人間の暗い現実や、在るはずの現代の人間の狂気を書くものである。

だが数十年も書き続けていると、その現代というものがどんどんずれてきて、新しい機器や新しい危機や新しい鬼気が生まれてきて、現代の人間の狂気というものもだいぶ変質をしつづけている。

人間の本質がいくら不変でも、人間の周りが極端に変わってきたら、その本質だって、多少は揺らいだり傷ついたり痛んだりするものだ。

そこがこの作品の、重要な課題のひとつでもあるのだ。

おそらく『巨人荒野』は、その長さに於いて驚異的なものになるはずだが、世界一といえないのは、どんな世界にも上には上がいると解っているからだ。

わたしは終わることがないと何度か云ってはきたが、終わらないことを期待しているのでも、画策しているのでもない。

いずれいつかは終わることを、念頭において書いてきているのだ。

だから終わることのないというのは、予感であってそれ以上でもそれ以下でもない。

漠然たることしか云わないのは、自作解説なんてものが、作者にとって最も忌むべきはずのものであるからである。

優れた作品は、作者の思わくを超えるものであるのに、作者があれこれ云いすぎると、人の好い読者は（作者がこう云っているからそうなんだな）と、あらかじめ付度してしまう。

作者自身も前もって「このテーマで書く」なんて云ってしまうと、己が作った枠のなかで安閑として飛び立つことがなくなってしまう。

それに、作者が読者に対して親切過ぎることは、結果として読者の思考の羽ばたきを抑えてしまうことになりかねない。

文学にかぎらず、音楽や絵画やその他の芸術作品というものは、永遠に静謐な墓石と異なり、あくまでも活動しつづける〈生き物〉なのであるということ。私たちは何どきも忘れてはならない。

さて次にまたまた「登場人物一覧」を入れるのは、これを一望すればいままでの物語がなんとなく思い出せるかもしれないとおもうからだ。

念のために記すが、思い出すのは読者ではなく作者である。

未だ拙作の熱心な読者は見当たらないから、余計な心配はしなくていいが、ともかく心配なのは自分の記憶力なのである。

『巨人荒野』の【主な登場人物紹介】（○は第三部に登場）

○麻暮正作／伝説的探偵

○荒野大三郎／謎の存在

●小林金助／麻暮の凄腕の手下

●竹田金之助／金助の息子で大泥棒

●玄治／麻暮の片腕

●松本玄信／政界の〈ドン〉

●北山極斎／美術界の巨匠

●日下典禅／〈愛信会〉の教祖

●西園寺金時／湘南一の金満家

●川上宙衛門／「自殺請負所」所長

●木下弁太郎／玄信の秘書

○川上宙門／宙衛門の息子で科学者

●木下太郎／弁太郎の息子で医学者

- タナカ／介護ロボット
- ナカタ／AIロボット

- 山内参三／人気作家で『死んだる団』を出版

- 舟木英介／私立探偵兼玄信のガードマン

- 朝山完吉／『暗殺論』の大思想家

- 山風順一／新宿署の敏腕刑事

- 小金井豊／〈日刊スクープ〉のスター記者
- 山本久治／〈日刊スクープ〉の編集局長
- 小金井豊子／小金井豊の孫娘
- 山本久子／山本久治の孫娘

- 川上真希／舟木英介の恋人
- 立花雪絵／【死んだる団】で後山内の妻

- 高杉京平／【死んだる団】で反体制主義者
- 藤上吾郎／【死んだる団】で爆弾マニア
- 辻中亀夫／【死んだる団】で元全共闘闘士
- 清水清／【死んだる団】で印刷屋社長
- 松本大海／【死んだる団】で玄信の息子
- 朝山善吉／【死んだる団】で完吉の息子

- 小林勘助／山風の手下で金助の弟
- 花井健太／山風の相棒で後養子
- 山風健一／健太の息子で鎌倉署署長
- 寒崎武士／麻布署の警部
- 花井勇太／麻布署の刑事で健太の兄

- 新川次郎／山内の後輩で弁護士
- 東剣市／湘南の流行作家
- 内田晴彦／湘南の郷土史家
- 立原正男／湘南の喫茶店店主

- 榊奈々／「郷田探偵事務所」のお得意様
- 榊美々／岬奈々の娘で荒野の曾孫

- 岬裕次郎／岬奈々の双子の弟（髑髏仮面）
- 闇猫／自称「元朝山完吉」他称「悪魔」
- 猫姫／闇猫の娘
- 双子美人／荒野の用心棒
- 電撃小僧／荒野の先鋭部隊隊長

- 猪鹿蝶子／才色兼備の東大大学院生
- 美村麗子／猪鹿蝶子の従妹
- 大介／蝶子と荒野の息子
- 麻子／麗子と麻暮の娘

- ギャバン／パリの青年のち郷田の秘書
- セリーヌ／パリ警察の刑事のち警部
- コテ／セリーヌの配下のちフランコの配下
- フランコ／イスラム研究家の教授
- カトリーヌ／荒野を信奉する美人モデル
- マドレーヌ／カトリーヌの姉
- ドゴール／MC病院理事長

- 陽羅義光／麻暮の師で無名の作家

- 郷田狂介／超人気探偵